

2019年1月21日(月)、福岡県M小学校6年生の授業を参観しました。授業者は学級担任のS先生。担任単独の授業でした。単元は”What do you want to be?”(We Can! 2, Unit 8)。8時間構成で、本時は第6時になっていました。本時の「ねらい」は以下のとおりです。

- 1) 話し手は、伝えたい内容が相手に伝わるように、声の大きさや速さに気をつけたり、これまでの学習で得た英語表現をわかりやすく使ったりしてスピーチを行い、聞き手は、相手のスピーチの内容を、良さや課題を考えながら聞いて、互いのスピーチを改善しようとする。
- 2) 自分の将来の夢とその理由について伝えたいという意欲を持ち、”I want to be a(an)～”などの英語表現を使いながら「お試しのスピーチ」をする。

授業は以下のように展開しました。

(Warming up)

1. はじめの挨拶
2. Small Talk
3. 今日の「めあて」の確認

(Main activities)

4. グループの人とお試しの「将来の夢のスピーチ」をする。
 - ・お試しのスピーチの手順やアドバイスの観点を知る
 - ・お試しの「将来の夢のスピーチ」をする
 - ・お互いにアドバイスをし合い、もらったアドバイスをもとにスピーチを改善していく。
 - ・アドバイスを受けて再度スピーチをする。

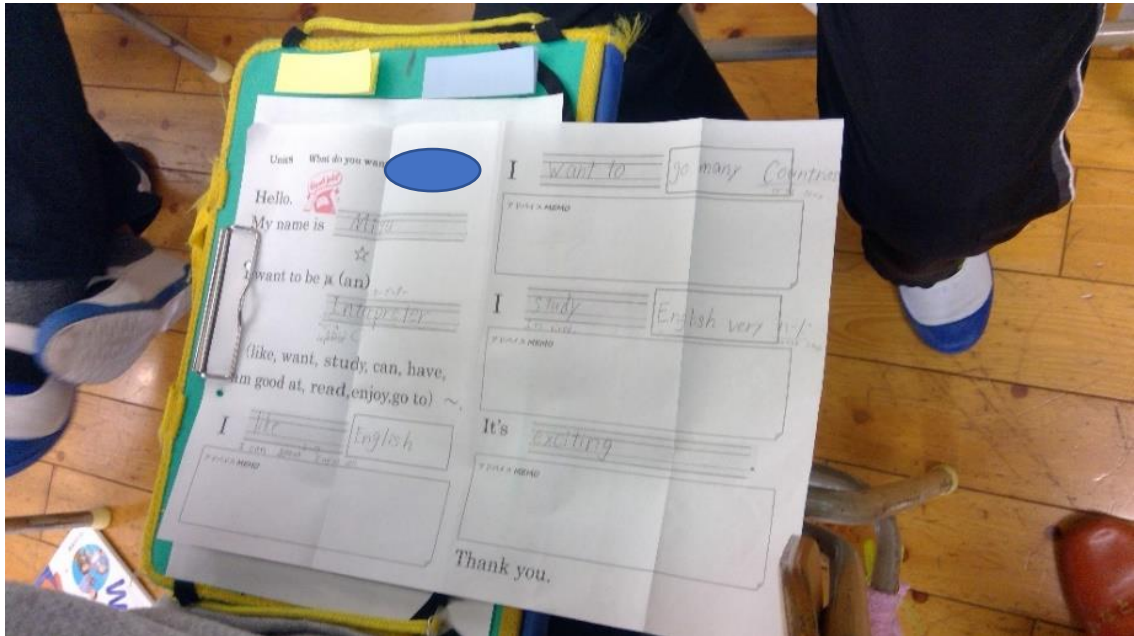
(Looking back)

5. 本時を振り返る
6. 終わりの挨拶をする。

【授業を参観して】

○授業の見どころは、児童が作成した「将来の夢のスピーチ」の原稿をもとに、4人グループで「お試し発表会」(単元の終末では学年で発表会をすることになっている)をするところでした。例えば、以下のようなグループ活動が行われました。

発表者の児童A: I want to be an interpreter. I like English. I want to go many countries. I study English very hard. It's exciting. (下の写真)



この発表を聞いて、他の児童が質問していきます。

児童B：インタープリターってどういう意味？

児童A：English, Japanese, English, Japanese,

児童B：英語？日本語？通訳者？

児童A：そうそう。

児童C：メニーカントリー？ それ何。

児童A：America, Canada…。 Many countries….

児童C：ああ、国？いろんな国に行きたいの？

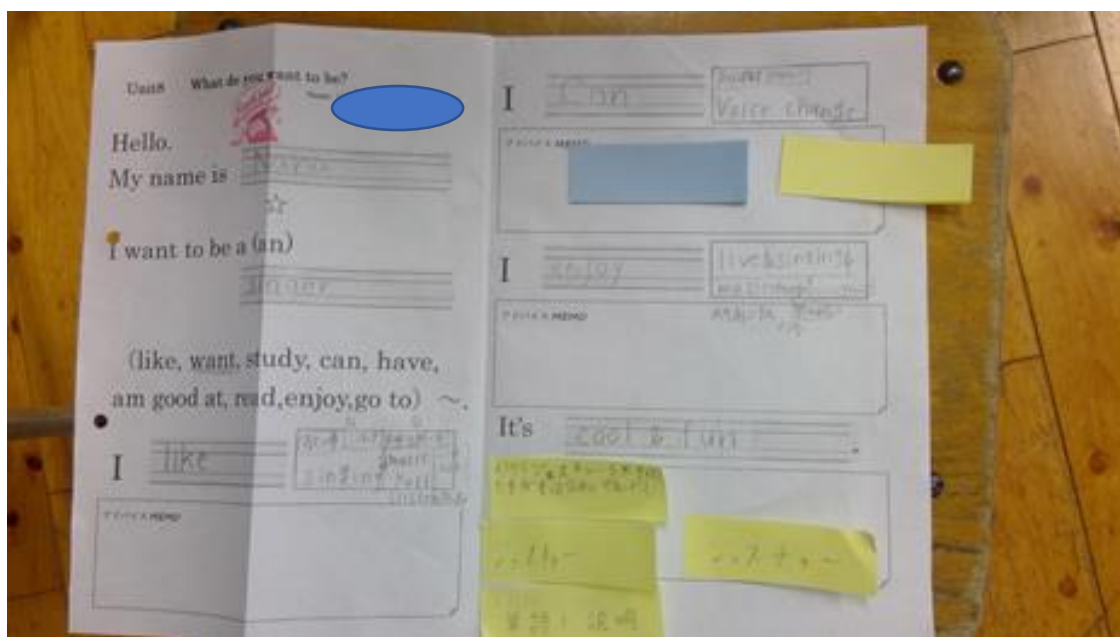
児童A：Yes. そうそう

児童C：なんか工夫しないとわからないよ？ジェスチャーすれば？

.....

一人が終わると次の児童がお試しスピーチをします。

発表者の児童B：I want to be a singer. I like singing a song. I can voice change. I enjoy music listening. It's cool and fun. (下の写真)



同じように、この発表を聞いていた児童が質問をしていきます。

児童 D：ボイスチェンジ？ どういう意味。

児童 B：Change, Change. ううん。(ジェスチャーをしながら) voice change.

児童 C：いろんな声が出せる？そこはジェスチャーをしたらいいよ。

.....

○この活動は、参観者によって、おそらく評価が分かれるところだと思います。否定的な見方として、1つ目は、児童にとっては難しすぎたのではないかという点です。2つ目は、間違いがあまりにも多く、それを放っておいてよいのか？という点です。両者は関連しています。

○授業者も自評の中で、「児童には難しすぎたと思う」と述べておられました。私も難しすぎる活動だったと思います。しかし、私が驚いたのは、なんとかして自分のことを伝えようとする児童の生き生きとした姿でした。授業者は指導案の中で「自分が本当に言いたいことや気持ちを英語で伝えたいという思いをもって活動に取り組むことができるようになっていく」と書いています。おそらく、これまでの授業でも「自分の本当に言いたいことや気持ち」を大切に授業を展開してきたものと思われる。自分の言いたいことを言わせようとする、既習の語彙や表現では間に合いません。既習の語彙や表現だけを使うと、自分の言いたいことが言えなくなります。そこにジレンマが発生します。

○そのジレンマに陥らないために、従来は「言いたいこと」ではなく、「言えること」を言わせるようにしてきました。ですから、本当は「社会福祉士」になりたいのだけれど、それ

は言えないから teacher にしておこうということになり I want to be a teacher. という英語を言うこととなります。

○「言えることを言う」ことと、「言いたいことを言う」場合は、どちらが言葉の学習としてふさわしいでしょうか？どちらが学習者を主体的にできるでしょうか？私は「言いたいことを言う」活動のほうが言葉の学習としても、主体性を育む活動としても優れていると考えています。言葉の本来の役割は、自分の考えや気持ちを伝えることです。そして、自分の考えや気持ちを伝えることが、外国語の学習の意味であると気づいた学習者は主体的に学習に取り組むものと思います。そのように考えると、この授業は大変優れた授業だったと私自身は評価します。子供の目は「やらされている」という目ではなく、自分の本当の気持ちを他の児童に伝えたいという気持ちにあふれていました。ですから、English, Japanese を繰り返しながらも interpreter の意味を伝えようとしていたのです。

○発表する児童は分からない単語などは、先生から前の時間に教えてもらっているようでした。しかし、聞く方の児童は、その単語を教えられていません。そのような中で、どういう言い方がいいのか、もっと別の表現ができるのではないかということと話合っている姿は、まさに児童同士の「学び合い」の姿でした。とても素晴らしいものと感じました。もちろん、難しくなり過ぎないようにすることが、このような活動を成功させる鍵だと思えます。

○この授業に否定的な感想を持つとしたら、3つ目が「間違った英語を覚えてしまわないか」という点でしょう。担任が指導する授業に反対する人たちは、常にその点を攻めてきます。しかし、児童の様子を見る限り、実は児童自身が今の英語はすべて正しいと思っている訳ではないことに気づきます。「とりあえず、なんとか考えみたけれど、本当はどういうふうに言うのだろうか・・・」と考えているのです。そのような気持ちを持ち続けていると、もっとふさわしく、正確な表現に出会うと、「なるほどそうか」となり、学習は更に促進されます。「とりあえず、なんとか考えてみる」というような経験がないと「なるほどそうか」という気持ちを持つことは決してありません。

○それでは、この授業の課題は何かというと、インプットの少なさです。本時に限らず、担任の先生が児童とのやり取りの中で Oh, you want to go to many countries. や You can change your voice. などと言っておけば、go の後ろには to が必要なこと、また、can voice change ではなく can change voice という語順になることに気づくはずですが、全く同じ文でなくても、I want to go to the park, や You can change the world.などを聞かせておくことが大切です。または活動のあとに、そのような表現を聞かせて自分の誤りに気づかせるようにすることです。ここは、学級担任の先生には難しいところかもしれませんが、少しずつ、で

きる範囲で、英語のインプットを増やしていくことが必要となるでしょう。また、連携する中学校の先生に時々授業を見てもらって、英語の表現についてのアドバイスをもらうことを考えてもよいかもしれません。また、英語の表現について困ったことがあれば、いつでも質問できるように、中学校（またはALTの先生）とのホットライン(?)のようなものをシステムとして作っておくとよいと思います。英語の研修もよいですが、多忙な小学校の先生には、なかなか難しいものです。それよりも、日常的に授業の準備をしながら学んでいくというほうが効率的で即効性もあると感じています。

○今回の授業の課題をもう一つ上げるとすれば、Small Talkの部分です。みなと小学校の他の先生の子供の頃の夢を聞いて、それを当てさせるというものでした。それ自体は別に課題があるというわけではありません。しかし、Small Talkの定義によると「あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり…」ということになっています。小学校で英語を聞かせる場合、それをクイズ形式にする傾向が強く、新教材も英語を聞いて○や×をつけるクイズ形式のものが多いものとなっています。それ自体は決して悪いことではないのですが、クイズ形式になった途端に、なにかしら自然の対話とかけ離れていくように感じます（私だけかもしれませんが）。実際の会話はクイズ形式になっていません。自然な場面で、指導者が伝えたいことを、語彙や表現を繰り返したり、言い直したりしながら、自分なりの言葉で行うと良いのではないかと私自身は思っています。そして、その際に、指導者が今日の活動でも使われる I want to be ○○, I like cooking, I can make curry and rice. I study ○○ very hard. などの表現を繰り返したり、強調したりしながら、意図的に聞かせると良かったのではないかと思います。

○指導案では、「グループ内でお試しの『将来の夢のスピーチ』を行う。態度面と、就きたい職業の理由を表すよりよい英語表現を熟考する内容面とで、それぞれアドバイスがないかを考えさせるようにする。そして最後に、そのアドバイスを生かして改善したスピーチをもう一度グループ内で言い合う。」と記されています。態度面とあわせて、指導者が、児童に「よりよい英語表現」についても考えさせたこと、さらに、「内容面でもこれでよいのか」と児童に考えさせたことは、これまでの外国語活動を一步踏み出したものになっているように感じました。言葉は内容をともなって初めて表現方法を考える意味があります。

○本時の授業では総合学習や、キャリア教育などと関連させて、児童がもっと深く将来のなりたい職業について考える機会があれば、内容に関してはもっと深く考えることができたかもしれません。深く考えたことを全て英語にすることは難しいのですが、なんとなく考えて I want to be a teacher. と発話する時と、その理由を深く考えて I want to be a teacher. という時には、その言葉を発する時の気持ちの込め方が異なってくるのではないのでしょうか。いずれにしても、言葉の学習として、提案のある素晴らしい授業だったと思いました。